

---

## 終わりの時のしるし・聖餐式

今日の預言アップデートを、ずっと楽しみにしていました。理由はいくつかありますが、その内の一つは、今日の主の聖餐に繋がる内容だからです。私達は長年、毎月第一日曜日に聖餐式を行って来て、私は今日のこの日も、ずっと楽しみにしていました。オンライン上でも、世界中でたくさんの方が、私達と共に、聖餐にあずかるのを待っておられると聞いていて、本当に嬉しく思っています。

しかし今日は、少し違う事を行う予定です。今回は、一步下がって、いわゆる聖書預言の“森”を見たいと思います。そうすれば、“木”が良く見えてくるでしょうから。まずはなぜ、私達が毎週この預言アップデートを行うか、大きな図を示したいと思います。

2006年、主が私の心に強く語られたのが、私達は人類史の終末に突入しつつあり、それは、これまでに見た事の無いものだという事でした。始めた当時は、み言葉を教える前の、ほんの10分の預言アップデートでした。想像できますか？しかも、2006年の聖書の箇所は、マタイの福音書でした。ものすごい昔のようですね。あれ以来、預言的に大きな意味を持つ発展が、数えきれないほど起こりました。その為、私達が預言アップデートに費やす時間も増加しました。そして11年後の現在、皆さんも同感だと思いますが、カギとなる聖書預言が、見た事もないような、ものすごい速さで成就されつつあります。預言アップデートを始めた頃を思い返してみると、当時は、それほど時間もかからなくて、木曜日や金曜日に準備をしていたものです。でも今は、預言アップデートをする為に、私は土曜日の夜11時まで待たなければならないのです。あまりにも多くのことが起こるので、木曜日に日曜日のアップデートの準備をすれば、日曜日のアップデートをする為に、そのアップデートをアップデートしなければなりません。物事があまりにも早く進んでいますから。まさに、昨日がそうでした。それについては後ほどお話しします。

預言を学んでいる人達は、全てに追いつくのが、とても困難になって来たと感じているでしょう。全ての事が、あまりにも早く、あっと言う間に展開していますから。しかし、そうなる前もって告げられているのですから、驚くに値しません。物事がどれほど変わったか、全ての事がどれほど動いているのか、参考までにいくつかお話ししたいと思います。

2006年、アメリカの大統領は、ジョージ・W・ブッシュでした。ほとんどの人が、バラク・フセイン・オバマについて、聞いたこともありませんでした。それが2006年。イスラエルの首相は誰だったかご存知ですか？アリエル・シャロンです。その次は、エフード・バラック。シャロンはなくなりました。それから間違いでなければ、バラックは何かの罪で、刑務所にいると思います。そこから現在に早送りして、こんな事を誰が想像できたでしょう。ドナルド・トランプがアメリカの大統領、ベニヤミン・ネタニヤフが、再びイスラエル首相です。中には、預言的だと信じている人もいますが。なぜ、この話をしているか？それは、現在、聖書預言の議論に上がっている内容は、10年前には無かった事で、もっと言えば、5年前にも上がっていませんでした。具体的にはエルサレム、もっと具体的に言えば、誰も語っていなかった事、いわゆる「内密に行われていた事」。アメリカの大統領、大統領候補者が選

拳公約として、アメリカ大使館をテルアビブから、イスラエルの本当の首都、永遠の首都エルサレムに移すという約束。これが、ドナルド・トランプの選挙公約の一つでした。大使館の移動、特にアメリカ大使館をエルサレムへ移動させる事が、預言的に、また地政治的に、どれほど大きな意味を持つか、いくら強調しても強調しきれません。これに関して、その理由や何かを今日は深く追求しませんが、アメリカ大使館を、さらに6か月テルアビブに置くと大統領が決めた事は、皆さんもお聞きになったでしょう。それに関しては、深く追求しません。それは今日の私の意図ではありませんから。ただ、これに関して私は今日お伝えしたいのは、このような会話は、5年前には考えられなかったという事です。もっと考えられなかったのは、これに関して、もちろんイスラエルの中で落胆の声が上がっていますが、彼らはまだ希望を持っていて、これは、仮定の話でなく、何時か実現すると見えています。問題は、いつ、どれくらい早く起こるのか？木曜日、Ynet News がイスラエルの落胆について報道しました。その中で、ホワイトハウスの発言を引用しています。

——ドナルド・トランプ大統領が、在イスラエルのアメリカ大使館を、テルアビブからエルサレムに移す案を、遅らせる事に署名した。これを、大統領のイスラエルに対する支援や、アメリカとイスラエルの同盟関係の後退だと考えるべきではない。大統領は、アメリカの国家安全という厳粛な義務を全うする為、イスラエルとパレスチナ間の同意に向けて、交渉の機会を最大限にする為、この決断を下したのだ。しかし、彼が何度も繰り返してきたように、大使館の移動は彼の意図するところだ。問題は、「移動するかどうか」ではなく、「いつ、行うか。」イスラエルの高官が、トランプの決断に対して落胆の意を表明し、アメリカは、アラブの圧力に屈したと非難した。——  
それもあり得るでしょう。

——閣僚の Yuval Steinitz は言いました。「エルサレムをイスラエルの首都だと承認する事を否定するとは、意味が分からない。」Steinitz はネタニヤフ首相が秘密を打ち明ける仲であり、(よく聞いてください) トランプが、大使館移動を先延ばしにすると言った時、Steinitz は言いました。「メシアが来る前にしてくれると良いのだが。」——

皆さん、理解しておかなければならないのは、彼らは携挙について言っているのではなく、イエスが教会の為に来られる話でも、メシアの再臨の話でもなく、彼らはメシアの初臨を言っているのです。皆さん、分かりますか？それは、彼らが“反メシア”を受け入れる事を意味しているのです。反キリストです。アメリカ大使館の移動は、頻度と強さ、両方が増大している事の例えの一つに過ぎません。中でも、イスラムテロ攻撃の頻度が増している点を見れば、十分でしょう。ちなみに、彼らがそのものですよ。「イスラムテロ攻撃」彼らは、毎日のように、ニュースを覆いつくしている気がしますが。昨日のロンドンのテロ攻撃を見ても、3か月の間に、3度目のテロ攻撃、月に一度です。驚くには値しません。1997年、私は妻とヨルダンとエジプトに行く途中、ロンドンに行きました。これは、子供が出来る前の話です。私達は世界旅行をしていたのです。私達はロンドンで、ホテルまで歩きながら、イスラム教の本屋とモスクの側を通りました。20年前の話ですよ、1997年。車のバンパーにステッカーが貼ってあって、それにはこう書いてありました。“London for Islam” (ロンドンにはイスラムのものだ！) 20年前ですよ。「ロンドンにはイスラムのものだ！」と。皆さん、ロンドン市長の記者会見は、ご覧になりましたか？彼はイスラム教徒です。つまり私は言いたいのは、現在世界はこれまでに無かったほど、反キリストに対する準備が整い、熟しています。世界は、世界中の問題を解決してくれる誰かを求めて、

絶叫しています。それは、反キリストが登場して行うのです。世界の経済問題や、全世界が抱えているテロ問題。世界に、平和、安全をもたらす事の出来る誰かとは。ここで、私は誰が反キリストかを推測しているのではない事を、どうかご理解ください。特に、私はトランプが反キリストだとは、一切言いません。実際に聞かれましたが、違います。それはあり得ないと思います。それだけでなく、反キリストは、イエス・キリストの教会が取り去られるまで、登場しません。それは携拳によって起こる事で、携拳は7年の患難の前に起こります。何を見てそう思うのか？第二テサロニケ2：6-12を読んでみましょう。パウロが書き送っています。

“あなたがたが知っているとおりに、彼はその定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれるときまで引き止めているのです。その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。不法の人の到来は、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びの人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。(第二テサロニケ2：6-12)

私は、サタンの働きによる不法が、すでに働いているだけでなく、サタンからの攻撃も増加していると思います。「悪魔が自分の時の短い事を知り」と黙示録に書かれています(黙示録12：12)。この為、サタンの働きと攻撃が“加速度を増している”と考えると納得がいくでしょう。私は、この“加速度を増している”という言葉、わざと使いました。黙示録22章でイエスは言われました。

“見よ。わたしはすぐに来る。”(黙示録22:12)

これは、新約聖書の原語であるギリシャ語では面白い言葉が使われていて、「すぐに」のギリシャ語は「TACHOS」です。ここから英語の「タコメーター」という言葉が来ています。これは1分間に定められた中での回転数を計ります。言い換えれば、時間は1分に設定され、その中での回転数を計るので、つまり、イエスが言っておられるのは、こういう事です。

「物事の加速度が増した時に、わたしは来る。」

物事の頻度、強度が増した時です。

現在が、人類史最後の瞬間であると、私が思う主な理由は、エルサレムを巡って起こっている事、特に、神の預言時計としてのイスラエルに関する事柄です。なぜ、今が世界史の最後の瞬間であると思うのか。その理由を聞かれるなら、私は次のように答えます。

「サタンからの攻撃が、加速度を増して激化している。」

もう少し具体的に説明しますので、良くお聞きいただければと思います。今日のサタンの攻撃は、キリストの体に分裂をもたらしていて、特に、それは聖書預言に関係しています。皆さん、理解しなければなりません。サタンは、聖書預言を憎んでいるのです。思いませんか？あなたの終わりについて、書か

れてある本があったとして、しかも、その終わり方が良くない。例えば火の海とか。サタンは聖書預言を憎んでいるのです。サタンは、特に患難前携挙の教義を憎んでいるのです。そして私にとっては、これらの激しい攻撃についても、全て説明がつくのです。それはどんどんひどくなっていて、今日の攻撃は、これまでに見た事の無いほど酷いものだと言えるでしょう。先ほども言いましたが、私は35年間主と共に歩んでいます、今日のように、ミニストリーがミニストリーを攻撃するのは、今までに見た事はありません。こんな風にクリスチャンが、クリスチャンを攻撃、中傷して、キリストの体の中に、争い、分裂を引き起こすのを、これまでに見た事はありません。

だから、私は今日の聖餐式を楽しみにしていたのです。パウロがコリントの教会へ始めに書いた手紙の中で、当時、その教会で起こっていたことを巡って、コリントの人達を叱っています。このパウロの時代に起こっていた事と、今日起こっている事を繋げて、それがどれほど深刻であるかをお話したいと思います。同時に、なぜこれが、主の来臨が最も近づいている証拠であるかを説明します。

なぜ現在、イエス・キリストの教会の携挙の寸前だと言えるのか。

まず第一に、コリントの教会の状況を短く説明します。初期の教会は、毎週聖餐を行っていたと信じられていて、また、大体それは日曜の午後だったようです。彼らは、聖餐に預かる前に、“アガペ愛餐会”と呼ばれる時間を持っていました。ユダの手紙の中に「愛餐」と出てきます。この愛餐会は、ここで私達が行っているのと似たようなものです。私達は木曜日のバイブルスタディーの後や、日曜日の第二礼拝の後に、一緒にポットラックをして共にパンを裂き、共に食事をします。これは使徒の働き 2:24 にあります。

“そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。”  
(使徒行伝 2:24)

これらは、「教会の4本柱」と呼ばれるもので、使徒教義、祈り、交わり、パンを裂き食卓を共にする。共に食べるという事は、特に中東の文化では、今日も変わらず非常に重要です。何故かと言うと、一緒に食べると言うのは、非常に親密な場面でみられ、共にパンを裂き、一緒に食べる事で、人との親密な絆を創るのです。ところで、この理由の為に、ユダヤ人は決して異邦人とは食を共にしないのです。それから、1993年、イツハク・ラビンとヤーセル・アラファトが調印したオスロ合意に、何の意味も無かったのもこの為です。彼らはただ、握手をしただけです。これは、契約を結ぶやり方ではありません。契約は、パンを裂いて結ぶのです。パンを裂くことによって、契約を結び、合意するのです。そして、共にパンを裂いたときに、親密な絆が創られるのです。

しかし残念ながら、この愛餐会の為に、深刻な問題が上がっていました。だから、パウロがそれに関して、このように率直に告げているのです。第一コリント 11:17 で、彼はこう告げています。

“あなたがたの集まりが益にならないで、かえって害になっている。” (第一コリント 11:17)

彼らの中の派閥争いや、分断が問題を深刻化させていて、その中で、問題を起こしている者たちが露呈した。本来愛餐会は、交流によって教会を一つにまとめる為のものなのに、彼らは全く逆の事を行い、

彼らを親密さの中で一つにまとめ、聖餐の前に信者の集まりの絆を生み出す代わりに、彼らは分裂、仲たがいを起こしていたのです。それどころか、ある人達は愛餐会と主の聖餐式を宴会の場として、分断を招き、いわゆる派閥を作っていました。コリントのクリスチャン達は、主の食卓を汚すほどに、問題が深刻化していたのです。彼らの中に多くの派閥や分断が、それもある事か、聖餐を巡ってそれが起こっていたのです。これは、キリストにある一致を祝って行われるはずのものです。つい先ほど、主の祈りを読んだばかりですが、

“私たちと同様に、彼らが一つになる為です。”（ヨハネ 17:11）

一つになる目的で行われるはずのものが、プライドと分裂に満ちていた。第一コリント 11:23-33 を読んでみたいと思います。

“私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、**主の死を告げ知らせるのです**。したがって、もし、ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、（よく聞いてください）主のからだと血に対して罪を犯すこととなります。”

（第一コリント 11:23-27）

これはかなり深刻です。

“ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。**みからだをわきまえないで、飲み食いするならば、その飲み食いが自分をさばくこととなります。そのために、——**”（第一コリント 11:28-29）

これ、よく考えてみてください。

“あなたがた（コリントの教会）の中に、弱い者や病人が多くなり、**死んだ者が大ぜいいます**。”（第一コリント 11:30）

「これの為に？」——そうです。「えっ!？」——そうです。

“しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。しかし、私たちがさばかれるのは、主によって懲らしめられるのであって、それは、私たちが、この世とともに罪に定められることのないためです。ですから、兄弟たち。食事に集まるときは、互いに待ち合わせなさい。”

（第一コリント 11:31-33）

ここで、パウロが言っている「ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む」という事を理解するために、まずは、彼が意図していない事を知らなければなりません。「昨夜、罪を犯した者」とか、「教会へ来る道中に罪を犯した者」という意味ではありません。私達のほとんどが渋滞に巻き込まれて、罪を犯しているでしょうから。そういう人達とは、パンを食べるのにふさわしくないと言っているのではありません。もしそうなら、私達は聖餐式を片付けなければなりません。私達の誰一人として、ふさわしい者はいませんから。そうでしょうか？それではまるで、お風呂に入る前に体を清めなさい、と言っているようなものです。もしくは“ふさわしい”という事について、あるコメンテーターの方が、良い事を書いています。

——この箇所に関して、ある特定の罪と葛藤していたり、ある種の試練と格闘している者は、“ふさわしくない”と、多くの人が理解していますが、それは、医者がある病人に対して、「元気になってから、ここに来なさい。」と言っているのと同様だ。もしくは、ローン会社が、お金の必要な人に対して、「ローン組みたいなら、先にお金を用意なさい。そしたら何とかしてあげましょう。」と言っているようなものだ。——

パウロは、こんな事は言っていません。なら、パウロは何と言っているのか？「ふさわしくないままで、パンを食べる」とは、どういう事か？これには2通りあります。

一つは、新生していない人です。彼らが聖餐にあずかるのは、ふさわしくありません。しかしながら、彼らも主の御名を呼び求めて救われるなら、彼らもキリストによって義と認められ、ふさわしい者となります。これが、聖餐式の意味するところですから。

二つ目、皆さんにはこれに注目していただきたいのです。パンを食べるのにふさわしくない者とは、新生したクリスチャンでありながら、キリストの体を見極めない者です。次に疑問は、「キリストの体を見極めない」とは、どういう意味か？私が思うに、「キリストの体を見極めない」とは、コリントで彼らが行っていたように、キリストの体に、分裂をもたらす事です。別の言い方をすれば、キリストの体を見極めないというのは、キリストの体を大切にせず、攻撃し、またその中に、分裂をもたらす行為です。これは非常に深刻な問題で、事実、コリントではこの為に、ある人は病気になり、さらにある人は死に至りました。コリントの人達が、これほどの裁きを受けた理由は、彼らがキリストの体に対して、脅威をもたらしたからです。そして、病気になってもなお、神に目が行かないなら、神は彼らを天に呼び戻される事もある。ただ、誤解のないように言っておきますが、病は必ずしも神の裁きの結果ではありません。病気、特に死は、崩壊した世に住んでいる事の結果であって、私達の罪の為に、神が私達を裁いておられるのではありません。その人が、神の教会にとって危険な存在であれば、神はその人を天に召されることがあるのです。それが、コリントで起こっていた事で、それは、聖餐の食卓を巡って起こっていたのです。キリストの体を見極めず、その代わりに、キリストの体に、不一致や分裂をもたらしていたのです。

私がこれを言った理由は、私は、今日のキリストのからだで起こっている派閥や分裂を、パウロの時代のコリントの状態と同様に見ているからです。今日、聖餐に預かる前に、私達一人一人が、キリストの体の中で、自分はどのように他の人に接しているか、自分自身を吟味する必要があると思います。あるいは、聖餐にあずかる前に、皆で共に聖餐にあずかるにあたって、私達は、自分たちの心を静めて、主

に心を探っていただくようお願いなくてはならないかも知れません。

最後に、これまで一度も主の御名を呼び求めて救われていない人は、どうか、今日私達と共に聖餐にあずかる前に、呼び求めてください。私達の誰一人として、ふさわしくないままで、聖餐にあずかる事のないように。

祈りましょう。

天のお父様。他に適切な言葉が見つかりませんが、とても悲しい事であり、また、何よりも、私達が聖餐にあずかる前に、思い出すべきことだと思えます。主よ。あなたの来られる日、私達の贖いが確実に近づいていると心から思います。あなたが、起こると言われた事の全てが起こっているのを、私達は目にしています。世の中がまさに、反キリストを受け入れる準備が出来ているのを目にしています。そして、反キリストが現れる前に、あなたが私達の為に来られる事を、私達は知っています。世の準備が出来ているとすれば、問題は「私達は準備が出来ているか？」私達は、あなた、キリストが私達花嫁の為に来られる為の、準備が出来ているか？主よ、今日この教会、またはオンラインで観ている人の中に、これまで一度も主の御名を呼び求めた事の無い人が居るなら、彼らが今日、あなたを呼び求めて救われますように。今日が彼らの救いの日となりますように。主よ、私達あなたを知る者、あなたの御霊によって新しく生まれた者には、どうかあなたが、ひとりひとりの心を吟味してください。私達は、コリントの人達のように、キリストの体を見極めなかった者として、名前を加えられたたくありません。感謝します。イエスの御名によってお祈りします。アーメン。

## 聖餐式

ルカの福音書 22:14 で、私達は主の聖餐を行うようにと命じられています。ルカは聖霊によってこう記しています。

“さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスと一緒に席についた。イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒に、この過ぎ越しの食事をするをどんなに望んでいたことか。あなたがたに言いますが、過ぎ越しが神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過ぎ越しの食事をすることはありません。」そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」(ルカ 22:14-19)

子どもの頃、私は父と叔父が共に食卓に着き、素手でご飯を食べているのを見て育ちました。想像できるでしょうか？彼らは、同じご飯をそれぞれ素手で食べ、種無しのパンを、同じフムスに浸して食べていました。同じパンを、同じお皿に浸して、同じご飯を食べて、さらには、同じ杯で彼らは飲んでいたので、「お前の中にあるのと同じものが、私の中にもあるのだ。」という考え方からです。「私達の中

には、共通（Common）の共同体（Union）があるんだ。」 Communion（聖餐）。特にアラブ界では、全ての中心に食べ物が存在します。それによって、親密な絆が創られるからです。何年も前の事です、私の母方の親族に確執が出来ました。言っておきますが、アラブ人の確執はものすごいです。本物の確執ですから。それも皮肉なことに、それが7年続いたのです。これが偶然かどうかは分かりませんが。ともかく、7年の後、彼らは集まって問題を解決し、和解する事にしたのです。その時、私の母と叔母たちは、皆が集まり、関係を修復し和解するこの盛大なお祝いの為に、丸一か月かけて用意したのです。これが、中東文化のやり方です。ここアメリカでは、共にパンを裂く事で生まれる重要さや、親密さを失っていますが。

私が今朝考えていた、あるコメントを紹介します。私個人の結婚生活を言っているのではありませんよ。私は牧師ですし、神の男ですから、結婚生活も完璧ですから。

“一切れのかわいたパンがあって、平和であるのは、ごちそうと争いに満ちた家にまさる。”

（箴言 17:1）

“いさかい好きな妻と一緒に家にいるよりは屋根の片隅に座っている方がよい。”

（箴言 2:19※新共同訳）

隣の人を突っつかないでくださいよ。理解しないといけないのは、パンを裂くというのは、生物学的にだけでなく、霊的にも様々な要素があるのです。人と一緒にパンを裂き、食事をするというのは、親密な関係の体験であり、そこに対立があってはならないのです。共に親密な時間であり、一緒に過ごす時間、共に絆を深める時間であるべきなのです。これをイエスは弟子たちに言っているのです。これは私達の同じ共同体（Common-Union）で、ヨハネ 17 章で主が祈られた“一つとなる”という事です。私達は、一つになるのです。もはや二人ではなく、一つです。主が御父と一つであるように、私達も主になって、一つなのです。だから私達も、今日これをあずかるにあたって、一つになりましょう。共にいただきましょう。

主よ、感謝します。私達があなたを覚えて、これが行えるようにしてくださり、ありがとうございます。今日私達は、これは共同体となる為のものである事、私達はあなたと共に、あなたの内にあり、またあなたが私達の内におられる事を理解した上で、パンを頂きました。主よ、どうか私達は、あなたが私達を愛してくださった愛で、互いに接し、互いを愛して、主の体を見極める者でいられますように。主よ、感謝します。

“食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、私の血による新しい契約です。」”（ルカ 22:20）

私達が手にしているのは、私達の代わりに流された、イエス・キリストの血の象徴です。聖書にはこうあります。

“血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。”（ヘブル 9:22）



だから、イエス・キリストの血潮には力があるのです。そして、その為に私達は毎月第一日曜日に、これを行うのです。私達の為に流された彼の血潮の力が、私達を一つにし、主に立ち返らせるのだという事を、私達が思い出す為です。罪が、私達を主から離してしまったからです。今日私達は、主が私達にしてくださった事を覚えて、これを祝っているのです。共にいただきましょう。

天のお父様、感謝します。あなたは私達をととても愛され、世にひとり子をお与えになりました。御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、あなたとの永遠のいのちを持つためです。主よ、今日私達が行った事が、最終的に、あなたの御国であなたと共に成就される日を、私達も心待ちにしています。だから主よ、マラナタ！早く来てください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

God bless you! キリスト中心の素晴らしい週をお過ごしください。



---

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」 ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい